

施策	54	自然とのふれあいと環境学習の推進	政策	5	人の営みと自然・環境が調和したまちづくり
施策主管課	環境課	課長名	高田昭一	内線	5240
政策担当部長名	市民協働環境部長 竹前雅夫				
施策関係課名	林務課、管理課、学校教育課、公民館、飯田市美術博物館、生涯学習・スポーツ課				
重点施策	関連計画				

1 施策の目的

目的	対象	市内の自然、環境 市民、事業所、学校
	意図	自然とのふれあいや、環境学習から環境意識が向上する

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
市域面積	km2	658.76	658.73	658.73	658.73	658.73	658.66	658.66 658.73
住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	102,000
事業所数 (H24以降は5年ごとの調査予定) (H21経済センサス基礎調査5年毎)	箇所	6,922 6,848	-	-	6,411	-	-	6,400 6,800
学校(中学校統合により1減)	校	28	28	28	28	28	28	28
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
自然とふれあいを持ったことがある市民の割合 (環境レポートアンケート)	%	24.8	31.2	32.7	50.2	57.6 57.4	59.8	40.0
環境学習会に参加したことがある市民の人数 (割合は市民アンケート)	人 (%)	16,634 (22.3)	21,644 (23.9)	32,963 (22.1)	36,776 (21.9)	38,398 (24.3)	37,765 (20.6)	31,000 (20) (34)

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
行政	市(国・県) ・自然とのふれあいや環境学習の機会を作る ・団体、事業所の活動を育成支援する	自然・環境学習会の実参加者数(人)(環境課チェッカー・エコクラブ、林務課森林づくり地区懇談会、公民館、生涯学習・スポーツ課、飯田市美術博物館、かわらんべ)	32,963	36,776	38,398	37,765	31,000 20,000
		自然・環境学習会の数(環境課チェッカー・エコクラブ、林務課森林づくり地区懇談会、公民館、生涯学習・スポーツ課、飯田市美術博物館、かわらんべ)	316	324	423	384	250 200
		育成支援した回数(環境アドバイザー派遣、美術博物館学芸員派遣、学びあい講座)	208	198	184	184	150 420
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項				
市民等	個人	自然とのふれあいや環境学習会に参加する	・自然とふれあうようにしているとアンケートで回答した人の割合 ・学習会に参加したことがあるとアンケートで回答した人の割合				
	団体事業者	自然とのふれあいや環境学習の機会を作る	・自然・環境学習会の参加者数 ・育成支援した団体数、回数				

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・環境レポートのアンケート数値は上向き傾向であるが、各学習会等への参加人数は前年度を下回り、市民アンケートの数値も下回っている。要因として、学習会において、天候による中止、開催方法の変更、学校の学習サイクルで回数の少ない年度に当たったこと等で、減となっている。市民アンケートについては、回答者の無作為抽出における変動幅のうちと考えられ、一定化している市民の割合が2割程度と考えられる。取組み自体は、外部要因はあったが、計画どおりに進め、成果指標は、H21年度からの推移は上向きであるため、「ある程度進んだ」とした。

【事務事業群テーマ別の評価】

< 自然とのふれあい、環境学習の機会の提供、情報の発信 >

・自然とのふれあい、環境学習会等は各分野において、行政側のみでなく、民間組織等による、エネルギーも含めた取組みの機会が増えている。また、公民館において学習の場を展開することにより、地域主体による意識向上が引き続き進展するものと考えられる。自ら学ぶ力を取得する場である義務教育においては、自然環境に恵まれた地の利を活かし、地域の素材に学ぶ体験学習等を展開している。

・環境課チェッカー・エコクラブ、水辺等美化活動、林務課森林づくり地区懇談会、公民館学習、生涯学習・スポーツ課、飯田市美術博物館、かわらんべ等における機会の提供、情報発信は継続性をもって定着化し、幅広い意識向上につながっている。

・高等学校ほかの教育分野、地域の自主活動等に機会の場を広げると共に、人材の継続性をもった確保と育成が課題である。

・平成26年6月に登録された南アルプスユネスコエコパークおよび平成20年12月認定の南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの取り組みの中で、南アルプス国立公園指定50周年記念事業とタイアップし、各種イベント、学習会、啓発活動等を行った。従来からの活動に加え、国際的評価を得た「南アルプスの自然環境保全を核とした地域」としての認識が地元地域での共有につながっている。

< ふれあいのできる施設の整備・維持管理 >

・森林とのふれあいの場である「野底山森林公園」において、上郷地域まちづくり委員会での運営維持管理、イベント開催等により、年代を超えた多くの市民の森林への意識が向上した。

・公民館、美術博物館、かわらんべ等の施設を拠点とし、それぞれの特徴を活かした運営維持管理、学習会により、幅広い市民の環境に対する意識が向上した。学校との連携による各施設の学習受け入れは、施設自体のPRと共に意識向上の継続につながっている。

・各施設において、良好なふれあい、学習環境の維持継続が課題である。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

< 自然とのふれあい、環境学習の機会の提供、情報の発信 >

・高等学校ほかの教育分野での環境学習や、実践活動の拡大を支援する。

・地区公民館単位の学級講座の内容の充実と継続的な運営を支援する。

・「環境アドバイザー」の数及び質の向上のため、環境保全先進地等の研修を実施する。

・ユネスコエコパーク、ジオパークの国際的評価の認識をさらに広め、地域環境の保全とともに、地域振興を視野に入れた学習活動等を支援する。

< ふれあいのできる施設の整備・維持管理 >

・「野底山森林公園」は、上郷地域まちづくり委員会やボランティア団体などによる地域特性に合った有効活用が図られるよう、協働による公園管理を推進する。

・公民館、美術博物館、かわらんべ等の施設利用者の要望等を把握し、学習環境の向上を図る。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標 施策5-4

対象

市内の自然、環境
市民、事業者、学校

意図

自然とのふれあいや、環境学習から
環境意識が向上する

成果指標

自然とふれあいを持った
ことがある市民の割合

環境学習会に参加した
ことのある市民の人数

自然とのふれあい・
環境学習の機会の提供・
情報の発信

ふれあいの出来る施設
の整備・維持管理

事務事業

環境学習推進事業

地域環境活動支援事業

森林ふれあい事業

緑の少年団支援事業

森林公園維持管理事業

天竜川総合学習館管理運営事業

林間学校等施設管理運営事業(大平)

林間学校等施設管理運営事業(姫宮)